会 議 記 録			
会議の名称	予算特別委員会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 阿久根由美子
日 時	平成27年3月20日(金曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午後 3 時 13 分
出席委員	堤 山本 酒井 奥村 田中 並河 富谷 平本 小松 小島 竹田 明田 <西口議長、齊藤副議長>		
執行機関出席者	<教育部>木曾部長、川勝次長、河原教育総務課長、林教育総務課副課長、松山学校教育課長、樋口社会教育課長、桂社会教育課人権教育担当課長、國府教育研究所副所長、塚本給食センター所長、玉記中央公民館兼図書館長、内藤図書館副課長、黒川文化資料館長 <大規模スポーツ施設プロジェクトチーム>桂政策推進室長、岸企画管理部長、俣野生涯学習部長、門総務部長、木村総務部税・財政担当部長、中川環境市民部長、西田環境市民部市民生活・保険医療担当部長、古林まちづくり推進部長、橋本まちづくり推進部土木担当部長、竹村政策推進課長、柏尾政策推進課施策担当課長、山本夢ビジョン推進課長、野々口スポーツ推進課長、石田総務課長、吉村環境政策課長、森都市計画課長、伊豆田都市整備課長、並河桂川・道路整備課長、仲田土木管理課用地担当課長		
事務局出席者	藤村局長、山内次長、阿久根副課長、坂田主任、三宅主任		
傍聴	市民 0名	報道関係者 0名	議員 4名(木曾、奥野、小川、石野)

会 議 の 概 要

〔教育部入室〕

10:00

1 開議

〔堤委員長 開議〕

〔事務局長 日程説明〕

2 第1号議案審査

【教育部 続き】

<教育部長>

昨日の説明を訂正させていただきたい。

<学校教育課長>

要保護事業において修学旅行費は実費と言ったが小学生2万円、中学生6万円の上限がある。訂正する。

質疑

<酒井委員>

P14、社会教育団体補助金の根拠は。

<社会教育課長>

内規で補助要綱を定めている。

<酒井委員>

- P 1 4、人権教育経費、人権教育推進経費について、人権関係の講座はどのくらいか。
- < 社会教育課人権教育担当課長 >
人権教育講座 5 回、人権教育指導者研修 3 回、女性集会 1 回、人権問題学習講座 4 回である。各地区で講座もしてもらっている。
- < 酒井委員 >
他部署の講座は把握していないのか。
- < 社会教育課人権教育担当課長 >
教育部会、行政部会それぞれで開催されている。人権教育啓発推進員が各地区におられ今年は 5 3 回である。他にもある。
- < 酒井委員 >
人権啓発推進協議会等活動補助 7 0 万円は一般財源である。なぜ部署を分けるのか。
- < 社会教育課人権教育担当課長 >
各地区人権啓発推進協議会に活動運営補助 7 地区分を出している。
- < 酒井委員 >
生涯学習部は活動補助、事業補助で 1 3 0 万円計上されている。
- < 社会教育課人権教育担当課長 >
人権啓発推進協議会全体組織への助成金 1 3 0 万円で、組織から各地区人推協へ交付されている。各地区の啓発事業は 1 事業 1 0 万円が上限である。
- < 酒井委員 >
1 本化してもかまわないのではないのか。市単費の補助金を別の部署からそれぞれ出すのではなく、整理できないのか。
- < 社会教育課人権教育担当課長 >
社会教育課は活動運営補助で、人権啓発課は組織全体にしている補助金であり、内容が異なる。
- < 富谷委員 >
中央公民館管理業務には空調分がないのか。
- < 中央公民館長 >
中央公民館管理業務は夜間管理等である。亀岡会館で計上されている。
- < 富谷委員 >
バリアフリー化は難しいと思うがどうか。
- < 中央公民館長 >
4 0 年を越す建物である。段差も高い、改修は統廃合の検討のなかです。
- < 並河委員 >
P 1 4、放課後児童会の場所は十分できるのか。
- < 社会教育課長 >
かなり厳しい状況である。児童 1 人 1 . 6 5 m²の基準は 2 5 校中 1 1 校が満たせていない。安詳小学校は児童数が増えてくる。今も十分でなく篠町自治会に出向き協議をしている。
- < 並河委員 >
指導員の報酬額は。
- < 社会教育課長 >
基本 1 時間千円で、補助員は 8 1 0 円を基本にしている。市のアルバイト職

- 員単価に合わせている。
- < 並河委員 >
交通費は。
- < 社会教育課長 >
嘱託の職員のみで、指導員補助・アルバイト等は他の部署との関係もあり支給していない。
- < 並河委員 >
人数は足りているのか。
- < 社会教育課長 >
厳しい状況であるが、なんとかやりくりしたい。
- < 明田委員 >
P 1 3、成人式の評価は。
- < 社会教育課長 >
対象者 1 , 0 2 7 人のうち 7 5 5 人参加、出席率は 7 5 . 3 %。
- < 明田委員 >
評価は。
- < 社会教育課長 >
従来は 7 3 ~ 7 4 % だった。参加も多く、研究会から高い評価を得た。
- < 明田委員 >
P 1 3、社会教育委員報酬は何人分か。
- < 社会教育課長 >
1 2 名である。
- < 明田委員 >
社会教育指導員の活動状況は。
- < 社会教育課長 >
3 名、週 4 日勤務で、成人式、家庭教育学級の指導等をしてもらっている。
- < 明田委員 >
中央公民館に空部屋はあるのか。
- < 中央公民館長 >
平日はほぼ使用されている。
- < 明田委員 >
通常使わない部屋はあるのか。
- < 中央公民館長 >
事務所の横に亀岡会館の特別応接室がある。
- < 小松委員 >
P 1 5、七谷川野外活動センターは使いやすいと聞いている。利用状況は。
- < 社会教育課長 >
H 2 6 年度 1 月前末で 9 , 1 2 8 人、うち市内 3 , 2 1 9 人、市外 5 , 9 0 9 人。
- < 竹田委員 >
図書館に行けない地域の人のためのサービスはあるのか。
- < 図書館長 >
ホームページで予約できる。
- < 竹田委員 >

- 自治会館等の使用の考えはないのか。
- < 図書館長 >
今後検討したい。
- < 竹田委員 >
充実を図られたい。
- < 富谷委員 >
図書館の利用は増えているのか。
- < 図書館長 >
利用は毎日400人程度である。工事による中央館休館時は馬堀、ギャラリー図書館の利用が増えた。
- < 田中委員 >
人権教育での性同一性障害への対応について考えは。
- < 社会教育課人権教育担当課長 >
H25年度講座をしている。H27年度も講座で考えていきたい。
- < 田中委員 >
文部科学省も啓発資料を作成中と聞いている。学校教育を通じてよろしくお願ひする。
4月1日から教育委員会制度が改正される。教育長の中立性は担保出来るのか。
- < 教育部長 >
教育行政に対する責任を首長含め明確にするものである。政治的中立の担保について、施策は教育委員会で合議制をもって決定される。そのなかに首長は入れない。首長、教育長で開催される総合教育会議がある。そのなかで首長が極端な意見をしたら教育委員として意見を言う場もある。
- < 田中委員 >
人によって違う。歯止めをかける担保は必要だと思う。
- < 教育部長 >
首長が教育長を任命するので首長に近い教育長が任命される可能性はあるが、教育委員は議会の承認を経て任命される。教育委員に教育委員会を開催する権限も与えられている。政治的中立性は保つことができる。
- < 田中委員 >
放課後児童会について、千代川小の場所の確保は。
- < 社会教育課長 >
移動を視野に入れている。
- < 並河委員 >
文化資料館友の会の内容は。
- < 文化資料館長 >
平成元年設立以降、現在の会員数は80名、活動は城下町探訪サークル、古文書解読サークルなど、サークル活動で月2回程度されている。

10 : 38

委員間討議

- < 酒井委員 >
P1、就学奨励金経費について、決算審査の指摘により減らしたとのことで

あったが、そのような意味での指摘ではない。執行後、出口調査をしてほしい、議会は困ったところに拡充するべきであるという意見だった。どう改善したのか。縮小だけに見える。H25年9月30日の決算特別委員会総務文教分科会の意見は抜本的改善の指摘である。H25年度1,846万円、H26年度1,464万円、H27年度1,070万円と約400万円毎年減らしている。考えを聞きたい。

<山本副委員長>

制度は同和施策であった。H14年度から一般施策にしたとのことで、金額を見直すのではなく、他の奨学金を見極め精査したうえで必要な人に必要な額を充実するようという意見だった。400万円減額の根拠は聞いておきたい。

<酒井委員>

抜本的見直しの内容を確認して、意見を言っていくのがよいと思う。

<堤委員長>

他に意見はあるか。

<酒井委員>

P14、人権講座、イベント等まとめないと効率が悪いと思う。講座ではなくて人権問題が共有されていないといけない。

<田中委員>

人権啓発と人権教育で事務分掌を見直すように言ってきた。中身の重複を十分見極めるべき。市民にはややこしいと思う。

性的マイノリティは一般的に知られていない問題で教育等が必要である。人権と言えばよいのではなく整理する必要がある。議論できる場が必要である。

<堤委員長>

人権問題は永遠のテーマで大事である。

<田中委員>

人権問題を軽視してもよいとは言っていない。

<酒井委員>

講座、イベントの重複を整理し、他のものにも振り向けて人権の考え方を普及させていくのがよいのではないかと思う。

<山本副委員長>

人権啓発、人権教育は毎回重複を指摘している。検討したうえで今の状況なのか聞きたい。整理すべきは整理しなければならない。

<教育部長>

同和問題を中心に人権問題の解決をしてきた歴史的経過がある。現実に差別は残っている。人権啓発課は同和問題を切り口に啓発事業を中心にしている。人権教育は社会教育、学校教育の面で人権を見ている。徐々に統合する過渡期であるが、教育で解決すべき問題もある。当面今の考え方で他部署と連携し人権問題に向けていきたい。

〔教育部 退室〕

10:55

〔 休 憩 〕

〔大規模スポーツ施設プロジェクト・チーム 入室〕

1 1 : 0 5

【大規模スポーツ施設関連経費】

説明

< 政策推進室長 >

京都スタジアム（仮称）を含む京都・亀岡保津川公園は、スタジアムのH29年度末完成に向け進めている。関連して行う、市民の機運を高める啓発事業、希少生物の生活環境調査の実施、アクセス道路として市道保津宇津根並河線の整備、京都・亀岡保津川公園の整備、及びスポーツ振興に関連する経費を計上している。用地取得経費は土地取得事業特別会計で計上し、総務文教常任委員会で審査され、上水道、下水道の設計業務経費は各会計で計上し、産業建設常任委員会で審査されている。

1 1 : 1 5

〔所管課長 説明〕

1 1 : 2 5

質疑

< 酒井委員 >

P 1、生息環境再生整備実験、環境調査業務委託料の内訳は。

< 環境市民部長 >

生息環境再生整備実験の施工管理、整備工事関連経費は1,900万円、生息環境再生整備実験によるモニタリング調査経費は2,300万円、アユモドキ以外の希少生物等の保全対策経費、実験場の維持管理経費は450万円計上している。

< 酒井委員 >

モニタリングは公園ができてからも続けられないといけないのか。

< 環境市民部長 >

環境省指定の希少生物、府条例指定の希少生物がある。専門家から当該地域における保全すべき対象種等の選定をしてもらっており、影響のない工法を選定し施工する。施工前、施工後モニタリングを一定行う。経費は大幅に減少する。

< 酒井委員 >

継続の見込みは。縮小の見込みは。

< 環境市民部長 >

モニタリングの結果で判断する。

< 酒井委員 >

委託先は。

< 環境市民部長 >

H25、26年度、実験は亀岡市アユモドキ保全協議会である。H27年度債務負担行為をもらっており現在契約に向け入札を行っているところである。

- < 酒井委員 >
モニタリングもそのとおりか。
- < 環境市民部長 >
契約に向け入札を進めている。
- < 田中委員 >
事業着工までに結果は出るのか。
- < 環境市民部長 >
専門家会議で基本方針を取りまとめてもらっており、月曜日に会議が開かれる。そこで保全対策の一定のまとめがあると思う。
- < 田中委員 >
2 3日か。
- < 環境市民部長 >
そうである。
- < 並河委員 >
P 3、専門家会議での洪水に関する意見は。
- < 政策推進室長 >
治水に関する検討はされていない。
- < 田中委員 >
洪水のシミュレーションが明らかにされていない。保津川の河道整備もこれからである。洪水の恐れがあると思う。
- < まちづくり推進部長 >
スタジアム建設が原因で水害がひどくなるものではない。京都府には万全の対策をとってもらおうようお願いしている。基本設計作業の過程のなかで検討が進められている。盛土範囲を最小限にし、スタンド下に貯留施設を設置する。また周囲の駐車場は現状地盤を掘り下げること、100年確率の降雨で発生する洪水、ここでは霞堤などからの越流水に対してスタジアムエリアが受け持つ遊水機能分を確保するものである。市整備の共生ゾーンも遊水機能を低下させないよう計画地盤高を検討していく。
- < 政策推進室長 >
(並河委員の専門家会議での洪水に関する意見について) 専門家会議の委員に防災研究所の方がおられ水文学が専門である。委員会のなかで治水を考えないといけないという話は出たが、具体的な対応等は検討されていない。
- < 奥村委員 >
P 1、アユモドキ調査で府補助を活用している。本来事業主体が調査するものである。他にも使える補助金なので、他の事業に充てればよい。
- < 環境市民部長 >
アユモドキ保全にかかる周辺の桂川、曾我谷川は府の管理河川である。保全に関し府も各方面で負担し対策を講じてもらっている。より一層の保全のためスタジアムが情報の発信拠点になるよう基本設計のなかでも考えていただいていると聞いている。アユモドキの保護保全は国の4省の保護増殖事業計画もあり、国、府に引き続き亀岡市に支援いただくよう要望していく。
- < 奥村委員 >
他に使える補助金を使うのはよくない。本来は府が負担するものだと思う。
- < 並河委員 >

3件の用地未買収の状況は。

< 政策推進課長 >

1件目は取得価格と買収価格の差を言っておられる。代替地を用意したが了解が得られなかった。これ以上の歩み寄りには厳しいと感じている。H27年度中には必ず用地取得を終えなければならないことを考えると、法的手段の判断の時期にきている。

2件目は高齢者で、相続権者の方と交渉をしているが、自分の意思で売るのは抵抗があるとされている。周辺が公園になっていくのに農地で残すのはできないが、処分まではできない、当面借地で協力していきたいと言われており、近々面談する。

3件目は実証実験に入るときに市の対応で印象を悪くされた。事業に反対はされていない、最後に契約すると確約はもらっている。信頼の回復に努め早期契約に努めていく。

< 並河委員 >

法的手段のタイムリミットはあるのか。

< 政策推進課長 >

手続き等に10月はかかる。

< 並河委員 >

今年に出された住民訴訟に対する考えは。

< まちづくり推進部長 >

田中委員に説明したとおりである。

< 明田委員 >

府に対する要望について回答は。それに対する市の考えは。

< 政策推進室長 >

府には昨年2月基本的な要望を行った。その後都市計画決定の際のパブリックコメント等の意見をまとめ要望した。基本設計、基本構想で意見を取り上げた内容になるのではないかと考えている。

< 酒井委員 >

P3、観戦ツアー経費にバス代、チケット代は含んでいるのか。

< スポーツ推進課長 >

交通費は市が負担する。チケット代は個人負担である。

< 酒井委員 >

H26年は体育協会がしたが、同じか。

< スポーツ推進課長 >

同じである。大人500円、小人100円でH26年度は一部実施している。

< 酒井委員 >

150万円がバス代なのか。

< スポーツ推進課長 >

H26年度の実績では100万円で、他はサッカーデーの開催経費である。

< 田中委員 >

プロのサッカーチームが使うグラウンドである。本当に市民へ開放されるのか。

< 政策推進課長 >

施設内容が明確になった段階で、今の指摘の部分は調整したい。

< 田中委員 >

天然芝を張るピットなら、年間の試合のほか、何日間かしか開放しないのがほとんどである。きちっとしてもらう必要がある。

< 政策推進室長 >

サブグラウンドも考えられている。

11 : 48

委員間討議

< 田中委員 >

治水の問題である。府の河川課長は特別委員会で最小限にしていると言っていたとのことである。税金の使い方の問題で、ガンバ大阪は民間の資金、寄附で出来ているのにどうなのか。いつも金がないと言っているのにどうか。

< 奥村委員 >

スタジアムを柱に市内の道路整備も進められる。国道9号のバイパスとして、千代川から篠まで、丸太町亀岡間の道路など考えれば無駄だとは思わない。市内渋滞は避けたいと思うので、余部新国道線は早期に国道9号バイパスにつなげる必要があると思っている。

< 明田委員 >

いよいよ建設が進み、ランドマークとなる。市の活力、城下町のにぎわいにつながる。

< 竹田委員 >

事業に賛成である。事業費50億円に変更がある場合は市民に説明願う。市が建設すると思っている市民が多いので周知が必要である。スポーツ振興について底上げが必要である。

< 並河委員 >

スポーツ施設は良いが、場所が悪い。サッカーができると思い署名した人もいる。市民への説明をしっかりともらいたい。お金の使い方を考えるべき。

< 酒井委員 >

治水、アユモドキ等プロジェクトチームの課題は情報として出してもらいたい。中身も知っておいて進めるなら進める、心配なら調べるようにしないと合わないと思う。

< 奥村委員 >

府主体事業なので、スタジアムについて議会は府担当者から説明を聞くべきである。

< 堤委員長 >

市の情報だけでなく、府から生の声を聞きたい。

< 並河委員 >

当初から絶対反対だとは言っていない。場所を再考すべきと言っている。

< 酒井委員 >

共有できていない情報がたくさんあると思う。プロジェクトチームの課題を報告願う。公園15億円の内訳を出してもらいたい。府を呼んでいただきたい。委員の合意ができればと思う。

< 堤委員長 >

思いは共有していると思う。

< 酒井委員長 >

プロジェクトチームは決まってからではなく、話し合いの段階で資料として出してもらいたい。

< 堤委員長 >

後ほど、議会として取りまとめ調整していく。

< 政策推進室長 >

ここでの委員会での意見を肝に銘じて対応していきたい。

〔大規模スポーツ施設プロジェクト・チーム 退室〕

12:05

〔 休 憩 〕

14:00

【市長質疑項目検討】

< 堤委員長 >

議案賛否に影響するもの、政策的判断を求めるものを抽出しまとめたい。
各委員のあげたい項目を聞きたい。

< 酒井委員 >

多数決では決めにくいと思うので、なぜ重要なのか意見を聞けばよい。

< 堤委員長 >

意見の多いものから議論したい。

< 富谷委員 >

意見を聞いても決まっている。

< 堤委員長 >

1人3項目挙手願う。

〔結果〕

番号	挙手	番号	挙手	番号	挙手	番号	挙手
1	8人	6	4人	11	3人	16	
2		7		12		17	1人
3		8		13	2人	18	3人
4	1人	9	2人	14		19	1人
5		10		15	1人	20	7人

< 山本副委員長 >

バス交通関連経費が8人、大規模スポーツ施設関連事業経費が7人、亀岡会館費が4人、アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費、公園緑地管理経費が各3人、民生費、公立保育所運営経費が各2人の結果である。

< 堤委員長 >

論点をまとめていきたい。

委員間討議

(バス交通関連経費について)

<竹田委員>

篠地域は充実するが、他の空白地域は進んでいない。地域の要望に沿ってしっかり施策を進めてもらいたい。

<小島委員>

空白地域への市長の思いを聞きたい。

<富谷委員>

入りやすいところからではなく、不便なところからやるべき。

<田中委員>

空白地域を認識しているのはよいが、そのあとのスピードが遅い。困っている人がいる。目途を聞きたい。

<奥村委員>

今の料金体系を継続するのはどうか。費用対効果を考えるべきである。

<並河委員>

東別院町の住民はデマンドタクシーの要望をされている。見通しが聞きたい。市内を公共交通が網羅する計画であるが、実際の考えを聞きたい。

<山本副委員長>

空白地域解消は大きな問題である。東西別院も計画どおりにしてもらいたい。市長の考えを聞きたい。

<小松委員>

密集地域にも不便な場所がある。考えを聞きたい。

<堤委員長>

質疑項目とする。 了

(大規模スポーツ施設関連事業経費・アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費)

<奥村委員>

道路整備の具体化について聞きたい。千代川～馬堀をどうするのか。国道9号からバイパスまでのアクセスについて、アユモドキの調査について市長の考えが聞きたい。

<明田委員>

アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費と重なる。1項目にすればよい。このような課題はあるが事業を進めるという市長の思いが聞きたい。

<堤委員長>

1項目にする。

<酒井委員>

ランニングコストも把握したい。公園の基本設計の内訳は何か、公園のなかに2億円の橋ができることや体験学習施設を建てることも共有されていない。

<富谷委員>

専門家からみた課題は何か。

<田中委員>

先の委員会討議であった～について聞きたい。

<堤委員長>

質疑項目とする。 了

(亀岡会館費)

< 明田委員 >

亀岡会館の今後はどうなるのか。文化機能を有する施設は必要である。

< 並河委員 >

音響設備が整った施設は他にない。早急に対応が必要である。

< 奥村委員 >

会館は必要である。10年後を目標に、文化資料館含め文化ゾーンとして城下でという思いを持ってほしい。

< 堤委員長 >

質疑項目とする。 了

(公園緑地管理経費)

< 酒井委員 >

緑の基本方針44頁、国民1人当りの目標は20㎡なのに亀岡は7㎡だからやり、運動公園も充実させる、そうやっていってもつのかと思う。これから公共施設マネジメント計画を策定し、やっていかないといけないなかで、人口も含め管理計画を作らないといけない。10万人を想定している目標に達していない。住区基幹公園をおいといて、都市基幹公園を大きく整備する。この考え方で整備していったら身近な公園がなくなるのではと心配する。緑の基本計画の内容で維持できるのか。プールの改修は整理することになれば無駄になる。プールのあり方、入場料、管理方法も考えないといけない。そういった公園に対する考えを聞きたい。

< 奥村委員 >

プールの期間中駐車料金が必要であった。ガレリア駐車場は無料である。スタジアムはどうなるのか。体育館の裏に駐車場を整備した。維持管理にお金をかけていない。負担すべきは負担してもらわなければならない。考えが聞きたい。

< 竹田委員 >

特にあげることはない。

< 田中委員 >

プールは必要である。経営状態をどうするのが課題である。周辺にプールはない。スポーツ振興につながる。

< 奥村委員 >

公園の維持管理方法や体制を聞きたい。プールだけではない。

< 堤委員長 >

質疑項目とする。 了

(民生費)

< 酒井委員 >

H25年度決算ベースで見込んでいるが、それでよいのか。26年度は増額

が分かっている。予算の組み方が心配である。事業全体の取捨選択ができていない。今後の見通しについて考えを聞かなければいけない。

< 竹田委員 >

いままでは15億円だが今回は13億円の計上である。扶助費が伸び、危機感を持ってやっているが、予算の組み方に少し違和感がある。

< 奥村委員 >

収入をみてどこで折り合いをつけるか。市の持ち出しは1割程度なので補正は組みやすいのかと思う。予算編成上のテクニックだと思う。

< 酒井委員 >

テクニック、危機感の説明なしに、退職手当債の説明が短く、ひどいと思った。特別な起債なのに、償還期限、利率も言わないで、質疑しないと判らない。しっかり質疑を集中していきたい。

< 並河委員 >

生活保護費は4月から引き下げになる。窓際での保護辞退を強める懸念がある。相談にきっちり対応してほしい。減額の理由が聞きたい。

< 酒井委員 >

給付が減ることにはならないと思う。数字の操作とは思ふ。財政が危機的な状況なのであがっている。退職手当債の説明はせず、こんな予算計上で財政は大丈夫なのか。

< 奥村委員 >

予算を組むとき収入、支出をしっかりとっていくことが共通したことである。

< 堤委員長 >

質疑項目とする。 了

(公立保育所運営経費)

< 田中委員 >

公立保育所は正職員の保育士が少なく高齢化している。一方で必要な保育のため臨時職員等である。正職員の任用を充実するべきである。

長時間保育は保育士資格のない人もいる。充実すべき。

< 奥村委員 >

市立、民間にこだわらず、保育所にもこだわらない雇用形態を聞くのがよい。

< 田中委員 >

奥村委員の意見を含めて、市職員の任用、雇用形態が聞きたい。月曜日までに民間までの調査は、難しいと思う。

< 明田委員 >

賛成である。保育園の雇用状況も厳しいと思う。

< 事務局長 >

意図は分かるが、民間の経営の問題なので市長に答えられるのか疑問である。

< 田中委員 >

民間にはこだわっていない。

< 奥村委員 >

市長の管理の範囲で聞けばよい。

< 田中委員 >

大事ではあるが、予算審議のうえなのでどうかと思う。民間にはこだわっ

- ていない。
- < 事務局長 >
市長の権限の及ぶ範囲で整理する。 了
- < 堤委員長 >
質疑項目とする。 了
- < 酒井委員 >
就学奨励費に関して、議会の指摘が的確に伝わっていない。
- < 堤委員長 >
また討議の機会はある。
- < 田中委員 >
市長質疑の際に、答弁してもらえばよい。
- < 山本副委員長 >
目的、条件の検討、指摘に対する努力、検討を聞きたい。
- < 酒井委員 >
中身を言わず、議会の指摘どおり減らしたとのことであるが、議会は改革、改善を言っており、きちんと取り組んでほしいのに、流してはまずいと思う。
- < 奥村委員 >
担当課の説明がよくなかった。説明が途中で切れてしまったように思う。
- < 堤委員長 >
取り上げるか。
- < 山本委員長 >
聞くべきであるが、市長ではなく担当かと思う。
- < 富谷委員 >
担当に回答を求める。
- < 田中委員 >
教育長に求めるべきである。
- < 竹田委員 >
教育長に聞けば市長に聞かなくてもよい。教育長に求めることはできるのか。
- < 事務局 >
項目に加えるのなら、教育長が答えることになると思う。
- < 堤委員長 >
どうするか。
- < 富谷委員 >
市長質疑の際、教育長に聞けばよい。
- < 堤委員長 >
再質疑もできるか。
- < 事務局長 >
可能である。
- < 堤委員長 >
市長質疑にあげる。 了 -
- < 事務局長 >
就学奨励費あわせ7項目を市長質疑することでよいか。
- < 堤委員長 >

7項目とする。 了 -

<奥村委員>

質疑は自由か。

<酒井委員>

議会の指摘なので聞くべきだと思った。

〔事務局長 23日日程説明〕

<堤委員長>

市長質疑のまとめは、23日全員で確認願う。今日確認した方がよいか。

<富谷委員>

正副委員長に一任する。

<堤委員長>

執行機関への連絡は事務局に一任する。

<堤委員長>

本日の日程を終了し、散会する。

散会 15:13